

政策調整会議の概要

開催日：平成20年7月3日（木）

◎項目

- 1 忌引調査の結果報告等について【総務部】
- 2 「学力向上・いじめ問題等対策計画」（案）について【教育委員会】
- 3 各部局等の主要な取り組みについて【各部局等】

◎内容

1 忌引調査の結果報告等について【総務部】

【説明概要】

- ・職員が忌引休暇等を不正に取得していた事案を受けて、6月27日付けで服務規律の確保の徹底に関する総務部長通知を発出したところ。再発防止のため、周知徹底をお願いしたい。
- ・職員全員について、過去5年間に休暇の不正取得をしていないか、所属長に確認させることとする。

2 「学力向上・いじめ問題等対策計画」（案）について【教育委員会】

【説明概要】

- ・昨年の全国学力学習状況調査の結果も踏まえ、知事就任以降、土佐の教育改革の検証として知事勉強会を重ねてきたが、基礎学力の低さや、いじめ・不登校発生率の高さが浮き彫りとなった。また、その間に、児童虐待死亡事件も起こってしまった。
- ・これらの問題に対応するための緊急プランとして「学力向上・いじめ問題等対策計画」が、本日午後に開催される臨時の教育委員会で決定される見込みであり、今後4年間で取り組む計画の核となる事業は7月補正で予算計上を予定している（計画の「5つの改革」に沿って、補正予算の事業概要を説明）。

【主な意見】

- ・ここ何年で学力がぐっと悪くなったという話ではないと思うが、なぜ学力が低いのか。また、学力だけの問題なのか。
→例えば、机の前に座ってられない学齢期の子どもがいるが、その中には基本的な生活スタイルに問題がある子どもも含まれると思われ、これが暴力行為等につながっている面もあると考えられる。また、全国学力学習状況調査において全国と比べて数値的に明らかなのは、家庭での学習時間が少ないことである。基礎学力が身につけていない原因として、学校・家庭・地域社会や、最近では格差社会の影響もあるとも言われているが、学校では、できることから検討し、見直していく。
- ・以前、森林環境学習をしたときの学校は、いわゆる「荒れた学校」であった。これでは、勉強する環境になかなかならないと感じた。

→チャイムが鳴ったら教室に入るなどということは、学力の向上に向けた取り組みのベースとして、入学時からやっていく。生徒指導上の対策は、教育委員会事務局でチームを作って取り組むこととしている。やはり、幼児教育が担う部分も大きく、最近では「早寝早起き朝ごはん運動」の活動もPTAの方でも取り組んでくれている。

・全国との違いは学習時間が短いことということだが、家庭の教育だけが原因なのか。

→学校においても、いわゆる「教え込み」の傾向が見られる場合がある。教員の指導力向上に力を入れ、今後、指導の核となる教員を育成することとしている。

・荒れている子どもが多いということは、高知県だけの欠陥があるのでは。

→教員の指導力の向上や学習のくせをつけるといった取り組みが十分ではなかったとの認識はある。

(副知事)

・学力がこれだけ低いのは、不幸なこと。大切なことは、学校・家庭・地域社会それぞれが子どもをしっかり育てるんだという使命感をもって、全体で子どもを支えていくことである。4年で全国平均に持っていくという目標を立てたのだから、自分の子どもを教えるくらいに必死に取り組まないといけない。県民全体で問題を共有し、気運を高めていく。この問題は、(家庭とか学校とかどこか一つではなく)全体に問題があるのだろうと考えている。

3 各部局等の主要な取り組みについて【各部局等】

各部局が、6月の取り組み実績及び7月の取り組み予定について説明。

【主な意見】

(副知事)

・原油が1バレル144ドルを突破するなど、原油高が続いている。一方、自民党谷垣政調会長が漁業者支援として補正予算を組むとの報道がなされているので、海洋部・東京事務所は情報収集に努めること。

・産業振興計画は、官民協働で市町村ともタイアップして作り上げていくというのが知事のスタンス。官民協働・市町村とパートナーシップを組むことを、まず頭において取り組んでもらいたい。各部会が2回目3回目と忙しい時期の開催となるが、せっかく忙しい時間を割いて来てくれている委員の意見を聞き、意見が違う場合でも対案があればきちっと議論して、委員がお互いに議論を交わして、共通の認識までもっていきオーソライズできるようなプロセスを踏んでいってもらいたい。時間がないから県の言うとおりに決める、というのではこれまでの計画づくりと変わらないし、また、足をすくわれることにもなりかねない。目指すものが何なのかを頭に置いて進めてもらいたい。